

新城市民病院での地域医療研修を通して

名古屋第一赤十字病院 研修医 1年目

1ヵ月間研修させていただきありがとうございました。私は研修医1年目で初めての外部病院での研修ということで、一際不慣れな点が多く、患者様はじめスタッフの皆様にもご迷惑おかけすることが多かったと思います。そんな私ですが、普段診療している都市部での医療とこちらの医療では、想像もしていなかったような、配慮すべき点がいくつも異なっていたことに驚きました。

まず一つ目として、医療者側の提供するサービス(検査や処方、リハビリや介護など)が都市部よりも包括的で、患者様の訴えによるところが大きいという点です。都市部では訴えがあれば「病気を診断し、治療する」というのがスタートラインでゴールもはっきりしているのですが、こちらでは訴えがある時に個々人の状態に合わせてスタートラインもゴールも多種多様に変わっていくというのがくっきりと見えました。都市部と同じ疾患であっても、積極的に治療を勧め介入していく場合とそうではなく本人の一番楽な選択肢を選ぶ場合があるということが良く実感できました。勿論これらはどちらも正しい姿勢ではあるのですが、「選択肢」を常に複数提示できることは患者様一人一人に寄り添い、自分の診療の幅をより広く持てるので、これからの医師生活でこの姿勢を忘れないようにしようと思っています。

二つ目は患者様ご本人とご家族の関係が密接なことが多いという点です。都市部ではご本人が自宅療養を希望されてもお一人のため難しかったり、危ない状態になっても意思表示できる親戚が見つからなかったり、連絡が取れないというようなことがあり、非常に苦勞しているのが現状です。しかしこちらでは、ご家族が同居されている方も多く、そのご家族にも最期は自宅で看取りたいという方も多くいらっしゃるのので、退院先にご自宅が選ばれることが多いように感じました。しかし、一般に高齢の方の場合、入院の原因となった疾患による衰弱や入院中の廃用などが起きてしまうため、病気が軽快してもそのままでは自宅に戻れないことがほとんどです。そんな中、PT、OTの先生方はじめMSWの方の尽力や訪問看護、訪問リハビリの介入による援助などで患者様の希望に沿う退院が目指せるというのは地域ならではの事だと思えますし、医師の果たす役割と知見はより多岐にわたるため、先生方の努力がより広い範囲に求められ、それに応えていらっしゃるのだなと感じました。

私がこの1ヶ月で感じ、得られたものは長い医師生活の中で今このタイミングで学んでおくべきことだったと思い、このような機会が与えられたことを非常に幸運に思います。最後に重ねてになりますが、ご指導下さった先生方はじめスタッフの皆様、関わってくださった患者様、ご家族の皆様には厚く御礼申し上げます。この度は貴重な研修をさせて頂きありがとうございました。